

平成18年度「魅力ある大学院教育」イニシアティブ
「先端科学技術の芽を生み出す女性研究者育成」女性研究者セミナー

2006年12月29日にシンポジウムが実施された。このシンポジウムでは、藤川英華氏(上智大学理工学部)、汪洋氏(蘭州交通大学)、山田玲子氏(ATR)の3名の先生に御講演いただいた。講義タイトルは以下の通りである。

藤川英華氏(上智大学理工学部)「無限次元タイヒミュラー空間論入門」

汪洋氏(蘭州交通大学)「奈良女子大学と研究者としての私」

山田玲子氏(ATR)「第二言語の音声学習:基礎研究から学習支援システムの開発まで」

山田玲子氏による講演「第二言語の音声学習:基礎研究から学習支援システムの開発まで」では、山田氏によって開発されている英語の音声学習支援システムについて主に取り上げられた。まず、日本人が“L”と“R”の発音を判別できない現象について述べられ、どのようにすれば判別できるようになるか、判別できることが英語力向上にどれくらい貢献するかという話をしていた。そしてそういった背景を元に開発されている音声学習支援システムを紹介していただき、そのシステムの効果も実例を交えて教えていただいた。中でも「繰り返し何度もLRの発音の違いを意識しながら聞くことで、最終的には世代を問わずほとんどの人がLRの聞き分けをほぼ正確に行えるようになった」という実証は、その場にいた学生の英語学習に対する励みとなった。

講演の最後には、システムのデモンストレーションが行われた。「LRを含む簡単な単語を音声入力することで、“L”と“R”の発音が正しく出来ているかどうかを判別する」という発音チェック機能のデモでは、実際に我が校の先生が発音チェックに挑戦された。ここでは結果には触れないが、会場は大いに盛り上がった。

シンポジウムの最後には、研究者に関する一般的な質問の場が設けられた。「女性で良かったこと」「女性だからこそ苦労したこと」といった、学生からの女性科学者に関する質問に対し、3名の先生方それぞれが、自らのエピソードを交えながら丁寧に答えてくださった。